

Voice

伊藤病院だより
SUMMER

2019年6月1日発行 第66号 東京都渋谷区神宮前4-3-6 伊藤病院広報誌委員会



ブラームスの小径

医療の国際化に向けて

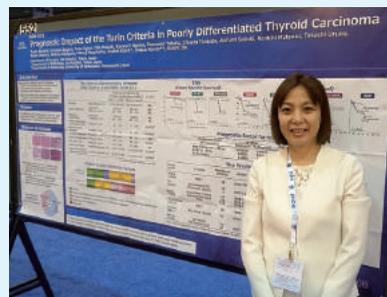
◆第101回米国内分泌会議で発表しました

伊藤病院 外科 赤石純子

2019年3月23日～3月26日にアメリカ合衆国ルイジアナ州、ニューオーリンズで開催された米国内分泌会議に参加してまいりました。ニューオーリンズはジャズで有名な芸術の都市です。本学会は米国だけではなく、欧州やアジアなど世界各国から内分泌の専門医が集まり、甲状腺疾患だけではなく、糖尿病や下垂体などの内分泌疾患について基礎から臨床まで最新の研究成果、症例報告等が発表、議論されました。

私は「低分化癌の予後について」発表いたしました。低分化癌は予後良好な高分化癌(乳頭癌や濾胞癌)と予後不良な未分化癌との中間の形態および予後を示します。当院で手術した甲状腺癌のうち、低分化癌は0.7%と稀な疾患です

が、分化癌に比べて再発が多いので、慎重なフォローアップが必要です。様々な質問があり、有意義な学会となりました。今後も甲状腺疾患の治療に携わりながら、臨床研究にも取り組んでいきたいと思っております。



◆アジア太平洋内分泌会議(APEC)に参加しました

伊藤病院 外科 ヘイムス規予美

アジア太平洋内分泌会議(APEC: Annual Meeting of the Asia-Pacific Endocrine Conference)は、アジア太平洋地域の内分泌疾患の診療と研究に携わっている医師や研究者が、内分泌学の向上と発展に寄与する目的で集います。

1988年にシンガポールで第1回会議が開催されて以来、毎年アジアのさまざまな国で会議が行われており、今回は4月19日～20日に台湾・台北で第30回を開催しました。

当院から、伊藤公一院長、長濱充二外科部長、北川巨診療技術部部長とともに参加いたしました。伊藤院長は最新の治療・診療技術についての演題、北川部長は希少症例報告の演題の座長をそれぞれ務め、私は「胸腺様分化を示す癌(CASTLE)再発例に対するCyberKnife®を用いた治療」についての発表を行いました。

アジア諸国でも、甲状腺内視鏡手術を口の中から行うことで手術の傷を体表面に作らない努力がなされており、また、首にとどまらずに胸のほうまで成長していった大きな

甲状腺腫では、胸腔鏡を併用して頸部と胸部の両方から手術を行った報告など、興味深い発表が多くありました。

なお、2014年より伊藤院長がAPEC理事長を務めており、当院に学会事務局がおかれております。APECに関する情報は伊藤病院ホームページにアクセスしてご覧いただけます。

今後も、伊藤病院における臨床研究成果をアジア太平洋諸国に情報発信し、この地域の内分泌医療の発展に向けて、積極的に参加してまいります。



伊藤病院研究会を開催しました

3月9日に、第50回 伊藤病院研究会を六本木アカデミーヒルズで開催しました。

この会は、1977年に始まって以来、その時々甲状腺疾患にかかわる診療上の課題について、当院で集積された大規模な臨床データを解析した研究結果や再診の知見を、全国から甲状腺疾患の研究・診療に携わっている先生方をお招きして、発表

1 高齢者の甲状腺結節について

(外科 田中智章医師)

近年、先進国において高齢化が加速的に進んでいます。特に日本は他の先進国よりも高齢化のスピードが速く、日本の高齢者医療の在り方は今後世界のモデルケースとなっていく可能性もあり、注目されています。



甲状腺乳頭癌の多くは、生物学的におとなしく成長が他の癌に比べて緩やかです。1cm以下の微小乳頭癌では経過観察も許容されていますが、それ以上では原則手術が治療の第一選択です。

しかし手術は侵襲を伴いますし、頻度は低いですが合併症の可能性もあります。高齢者の場合には予測される余命と病状の進行どちらが早いのか、治療を行ううえで悩まることがあります。

当院で75歳以上の高齢者にどのように診療を進めているか、またその治療成績につき発表いたしました。

する場となっております。

今年は院外からお集まりになった95名の方を含め、260名が会場に集まる中、外科から田中智章医師が、内科からは鈴木美穂医師が下記のテーマを発表し、活発な意見交換が行われました。

2 ビッグデータを用いた抗甲状腺薬治療での副作用の検討

(内科 鈴木美穂医師)

バセドウ病の治療方法には、抗甲状腺薬、放射線治療、手術療法があります。中でも、抗甲状腺薬は外来で治療できるため、日本ではバセドウ病の治療の第一選択となっています。しかし、この薬には様々な副作用が報告されており、非常に稀な副作用でも生命を脅かす可能性もあります。その代表的な副作用、無顆粒球症・重症肝障害・ANCA関連血管炎について検討しました。



無顆粒球症は、抗甲状腺薬の服薬量が多いほど発生しやすく、重症肝障害は内服開始後3ヶ月内に生じることが多いため、定期的な採血検査を行うことが重要です。プロピルチオウラシルを内服している場合には、自覚症状がなくてもMPO-ANCAという抗体が陽性になりやすく、血管炎の発症リスクが高くなるため、治療方針の変更が必要になります。

病態生理研究会で研究奨励賞を受賞しました

2月9日に第35回 甲状腺病態生理研究会が東京で開催されました。この研究会は主に関東・東北地区の甲状腺専門医が集まり、日々の研究成果を報告する場であるとともに、若い研究者の育成も目的として開催されています。

当院からは、鈴木菜美医師が「抗甲状腺薬による薬剤性肝機能障害の検討」を、川口医師が「マクロ



今回の研究会会長を務められた国際成育医療研究センター 母性内科診療部長の荒田尚子先生(中央)とともに

TSHによりTSH偽高値をきたした一例—マクロTSH血症におけるTSH値の乖離に関する検討—」をテーマに発表を行い、両医師ともに研究奨励賞を受賞いたしました。

「バセドウ病治療薬の重症副作用である肝機能障害について検討し、本年も研究奨励賞を受賞することができました。多くの先生方にご指導頂いた結果の受賞であり、またこの研究結果が日々の臨床に役立ち、更には多くの患者さんに有益なものとなればと思います。」(鈴木)

「多くの先生方にご指導頂き、研究奨励賞を頂くことが出来ました。研究結果を実臨床にも役立て、より良い診療を行っていけるよう一層頑張っていきたいと思います。」(川口)

高校生インターンシップを受け入れました

看護部

伊藤病院 看護部 内田愛乃 川鍋美穂

2月14日、15日の2日間、都立葛西南高校の生徒2名のインターンシップを受け入れました。「病院で働く様々な人の役割と連携を知ってもらい、今後の進路選択の一助としてもらう」という目的のもと、看護職を中心に医療を取り巻く多職種の見学を行っていただきました。バイタルサイン測定や足浴、ベッドメイキングの体験を実施し、看護師という職種への関心が高まった様子でした。手術室での体験では、ガウンや滅菌手袋を実際に着用し、職業体験ならではの体験が出来たのではないかと思います。また、多職種の見学を通して看護職以外の普段関わることの少ない職業にも興味を持っていただけたように感じました。今回の体験が今後の進路決定への手助けとなることを願っています。



診療技術部

伊藤病院 薬剤室室長 仲田三佐子

2月6日に、都立赤羽商業高校より、2名のインターンシップを受け入れました。

薬剤室では、まず薬剤師の業務についてご説明し、薬品管理、抗癌剤の調整、院内製剤など、業務は調剤だけではないこと、外来で薬をお渡しする時だけでなく、病棟や外来診察時など患者様と接する場面も多いこと、また、強い副作用を伴う薬で治療している患者様の対応には、特に多職種との連携が重要になることをお伝えしました。実習として軟膏詰め、散剤のテスト処方について総量を計算し、分包機を使って分包していただきました。



このほか、放射線検査室・臨床検査室では検査機器の説明とともに検査の疑似体験、臨床栄養室では入院患者様にご提供する食事の調理風景の見学などをしていただきました。職業イメージを膨らます一助になりましたら幸いです。

このほか、放射線検査室・臨床検査室では検査機器の説明とともに検査の疑似体験、臨床栄養室では入院患者様にご提供する食事の調理風景の見学などをしていただきました。

職業イメージを膨らます一助になりましたら幸いです。

岡崎中学校生徒さんの取材に協力しました

愛知教育大学附属岡崎中学校の3年生から、甲状腺の病気をテーマとして4月24日に取材がありました。

岡崎中学校では、自ら課題を見つけ、自身の体験に基づいて解決を図ったり、さらなる追求を深める力を養うため、校外での活動を積極的にすすめられており、その一環として修学旅行を兼ねて当院にいらっしゃいました。

取材では「バセドウ病には、薬以外にも治療の選択肢があるのに、なぜ橋本病には薬しか治療方法がないのか」「甲状腺の薬は何から出来ているか」などのご質問に、医療相談室の看護師が回答しました。

また、「患者の精神面のフォローはどうしているか」というご質問もありました。甲状腺の病気の多くは、長期にわたって薬の服用や経過観察を続けることが必要となるため、患者様でご自身の生活の一部となるように病気とうまく付き合っていくことが大切です。そのため、患者様が病気や治療について理解を深めることができるよう、独自のリーフレットを作成したり、医療相談室で看護師が疑問・不安の解消のサポートを行っていることなどをご紹介しました。



2019年 6月・10月の学会について

下記学会期間中は医師の休診・代診が多くなります

- 6月13日(木)～14日(金) 日本内分泌外科学会総会
- 10月10日(木)～12日(土) 日本甲状腺学会学術集会
- 10月17日(木)～18日(金) 日本内分泌外科学会学術大会

患者様にはご不便をおかけいたしますが、何卒ご容赦いただきますよう、お願い申し上げます。

明治神宮参拝

当院の位置する表参道は、明治神宮の参道として神宮造営にあわせて1919年に完成しました。そして、患者様と職員の安全・健康を明治神宮に祈願することが、昭和34年に始まって以来、当院の毎年の大切な病院行事の1つになっており、今年も4月2日に2班に分かれ、職員全員で祈願してまいりました。

明治神宮では、来年2020年の鎮座百年に向けて、さまざまな事業が行われております。今年秋には、新しい見どころとなる明治神宮ミュージアムがオープン予定です。



渋谷・表参道 Women's Runに参加しました

3月24日、9回目となる恒例の渋谷・表参道 Women's Runが開催され、伊藤病院・名古屋甲状腺診療所から16名のランナーが参加しました。この大会は女性限定で、約5,000名が表参道を埋め尽くす、お祭りのような華やかな人気の大会です。明治神宮の境内が1年に1度だけランナーに開放され、明治神宮のパワーを感じながら走ることができます。今年は伊藤病院オリジナルTシャツを着用し、途中、患者様にも応援していただきながら、全員10キロを完走することができました。ありがとうございました。

なお、大会には当院も負傷者受け入れ施設として協力しております。当日は天候にも恵まれ、ランニング日和のなか大きな事故も無く大会を終えられたとのことでした。

伊藤病院 看護部 岡田依里



伊藤院長が富士通(株)で講演しました

富士通株式会社 健康推進本部からのご依頼で、伊藤公一院長が2月20日に同社の健康推進委員会で特別講演を行いました。

富士通は、健康推進本部を中心に「健康いきいき職場認定制度」を取得するなど、職員のメンタルヘルス予防やストレス評価に取り組みされており、今回、社内の産業医や産業看護師を対象に講演会を企画されました。

伊藤院長は「専門病院における甲状腺疾患の取り組み」をテーマに、甲状腺の病気は決して珍しい病気ではないこと、また特徴的な症状が少ないために、他の疾患に間違われることも少なくないこと、そして当院で行っている検査から診断、治療について写真や図を交えてご紹介しました。



伊藤院長が筑波大学大学院で講義を行いました

伊藤院長は2002年から筑波大学大学院外科学教室の非常勤講師を務めており、今年も3月20日に同大学院医学セミナーにおいて、「内分泌外科医・内科医に求めること～甲状腺疾患専門病院より～」をテーマに講義しました。

講義では、甲状腺疾患全般について、我が国のガイドラインや当院での実際の診療、臨床研究結果を交えた検査、診断、治療についての解説を中心に、内分泌外科の分野で中心的役割を担ってきた日本内分泌外科学会と日本甲状腺外科学会の統合や専門医制度、高齢者の診療における課題など、幅広くお話ししました。

会場には、医学生に加えて診療や専門医育成に尽力されている医師の方々もお集まりになり、活発な質疑が行われました。



伊藤病院フォーラムを開催しました

4月13日に12回目となる伊藤病院フォーラムを開催しました。

このフォーラムは、院内各部署が取り組んでいる業務改善や研究について発表する場で、職員同士が互いの取り組みを知ることで、横断的な業務連携の構築に役立てるとともに、院外の学会等で情報発信するためのステップアップの場にもなっております。

今回、医療相談室、病棟、薬剤室、医事室、そして名古屋甲状腺診療所、さっぽろ甲状腺診療所の6演題の発表があり、病棟の「病棟看護における他職種との関わり～病棟薬剤師との連携に注目して～」が院長賞を受賞しました。

病棟薬剤業務とは、病棟に薬剤師が常駐し、看護師と連携して看護および患者サービスの向上をはかることを目的としており、当院では2013年に導入しました。病棟では、この連携をさらに深めるために2017年に関係職員にアンケートを実施し、その結果を受けた業務改善と今後の課題について報告しました。

伊藤院長が東京女子医科大学 第二外科臨床医学研究会を主催しました

東京女子医科大学第二外科同門会は、若手医師の研究・論文発表を奨励し、学術集会を開催するなど、会員の医学知識向上と相互の交流を目的に活動しております。

伊藤院長は同大学内分派外科学教室に在籍していたことから、2017年よりこの同門会会長を務めております。そして、今年2月には同門会による第二外科臨床医学研究会を主催し、選考委員により選出された論文著者に同門会賞を授与いたしました。



暑い夏、毎年熱中症の注意喚起がされ、一日中冷房が効いた部屋で過ごす方も多いと思います。そんな中、冷房病(クーラー病)という言葉聞いたことはあるでしょうか？冷房病とは冷房が原因と考えられる様々な健康障害の俗称であり、医学的に定義された病気というわけではありません。長時間冷房の効いた部屋にいたり、一日に何度も室内と屋外の激しい気温差にさらされたりすると、体温調節を担っている自律神経のバランスが崩れ、体の不調を来すことがあります。具体的には倦怠感、冷え、頭痛、食欲不振、腹痛、下痢、生理不順、不眠、免疫力の低下等が挙げられます。そこで今回は冷房病への対策についてご紹介したいと思います。

- **温度設定**：外気温との差が5～7度以内になるようクーラーは27度前後に設定しましょう。冷気が体に直接当たらないように気をつけ、タイマーを利用するなどして冷房を付けっぱなしで寝るのは避けましょう。オフィスなどでエアコンの温度や風向きを調整できない場合は、腹巻きやカーディガン、ひざ掛けや靴下などを利用しましょう。
- **血行**：ときどき外に出て体を動かしたり、夏でも湯船につかって血行を良くしましょう。足湯だけでも効果があります。
- **食事**：冷房の効いた部屋で冷たい飲み物や食べ物を摂取すると急速に体が冷えてしまいます。温かいものを摂取し、バランスのよい食事を心がけましょう。
- **規則正しい生活**：生活のリズムが崩れると自律神経のバランスも崩れるので、睡眠を充分にとって規則正しい生活を心がけましょう。
- **禁煙**：ニコチンが血管を収縮させ冷えを助長させるので禁煙をおすすめします。

それでは皆さん、今年も暑い夏を熱中症と冷房病どちらにも気をつけ、健康に過ごしましょう！

表参道寄り道スポット

ピエール・エルメ・パリ

青 山通り沿いに位置するピエール・エルメ・パリの日本旗艦店で、言わずと知れた高級パティスリー。



撮影 三嶋義秀

マカロンが有名ですが、店内にはこのほかにもたくさんの品物が並んでいます。

1Fのショーケースに並べられたケーキは色鮮やかで1つ1つがアートのように見ただけでも楽しめます。なかでもひときわ目を引く「イスパハン」は、ピエール・エルメ氏自身も「一生に一度は食べてもらいたい味覚」と語る代表作。上品な甘さのローズ風味クリーム、ライチの自然な甘さとフランボワーズの酸味が混ざり合ったイスパハンフレーバーが絶妙な優雅さを醸し出しています。

2Fのカフェ「Heaven」は、店内デザインはもちろんBGMにまでこだわりつつも、フロア中央のキッチンでパティシエさんが自分のためにスイーツを作るのを目の前で見ることができ、非日常感が味わえます。こちらの定番「クープ グラッセ」は、季節に合わせていろいろなフレーバーがありますが、イスパハンをパフェに仕立てたフレーバーはバラの花びらがトッピングされ、スプーンを入れるのも戸惑ってしまいます。お皿が出されたその時から楽しめる「サンサシオン」も人気です。パティシエさんが仕上げに温かいチョコレートソースをかけるととろけるチョコレートの中からデザートが現



撮影 三嶋義秀



撮影 三嶋義秀

れるこちらも、一見の価値あります。こちらも季節によってフレーバーが異なります。

また、パティスリーならではのバターにこだわったクロワッサンは、一口食べればサクッとした食感とともにバターの甘い香りが口いっぱいに広がります。1Fにはカウンター席があり、青山通りを眺めながら焼き立てのクロワッサンやケーキを楽しむことができます。お席にはヘッドホンも備え付けられているため、音楽を聴きながら素敵なひとときを味わえること間違いなしです。

青山通りを眺めながらラグジュアリーなひとときを過ごしてはいかがでしょうか。



サンサシオン
アンフィニマン ショコラ
2,640円(税込)



デザート サティヌ
2,400円(税込)

お店の方から一言
マカロン、ショコラ、ケーキからワインまで、豊富なラインナップを揃えています。店内で焼き上げるヴィエノズリーや焼き菓子の豊富な香りが漂い、焼き立てをコーヒーとともにいただけるカウンター席も。2Fのカフェ「Heaven」は、ピエール・エルメがあたかも皆さまをホームパーティーにお招きして、オート・パティスリー（高級菓子）を振る舞うことをイメージした空間です。不定期でイベントも開催しています。



店名 ピエール・エルメ・パリ
住所 渋谷区神宮前5-51-8 ラ・ポルト青山 1F・2F
電話番号 03-5485-7766
営業時間 1F 11:00～20:00 (イートイン L.O19:30)
2Fカフェ「Heaven」11:00～20:00 (L.O19:00)
年末年始
定休日 当日から徒歩9分(表参道駅B2出口から徒歩3分)
アクセス 当院から徒歩9分(表参道駅B2出口から徒歩3分)
ホームページ <https://www.pierreherme.co.jp/boutique/aoyama/>
席数 26席(2F)
Wi-Fi あり
タバコ 禁煙



表参道ランチ&グルメ情報

中華風家庭料理 ふーみん

 東京メトロ 表参道駅B1出口から徒歩3分程、骨董通り沿いのビルの地下1階にある行列のできる中華風家庭料理のお店「ふーみん」さんを今回ご紹介させていただきます。様々なお店があり入れ替わりの激しい表参道で33年前から愛され続けている人気店です。



メニューはこれぞ中華！という定番から、旬の食材を使った料理まで、種類が豊富で何度も足を運びたくなります。

その中でもランチ限定の「豚肉の梅干煮定食(税込1,150円)」は大人気メニューで、すぐに完売してしまう程です。

中華で豚の煮物というところり系をイメージしてしまいがちですが、こちらのメニューは梅干の酸味でさっぱりと食べられるので、女性にもおすすめです。また、こちらも人気メニューとなっている「納豆チャーハン(平日ランチ特別価格 税込1,350円)」チャーハンに納豆の旨味加わり、絶品です！その他にも平日のみの「日替わりランチ(税込1,150円)」や数種類の麺料理など、どれも魅力的なメニューばかりです。そして、なんとランチは16時までですので、ランチメニューを長く楽しめるのも嬉しいポイントです。

座席はテーブル席だけでなく、カウンター席もありますのでお一人様ランチにも最適です！

みなさま、表参道にお越しの際や、ご来院の際には当院から徒歩10分程度にある「中華風家庭料理ふーみん」さんで絶品中華を堪能されてはいかがでしょうか。



ランチでは
蟹の味噌汁と
ごはん・ザーサイ
食べ放題が
付きます！



豚肉の梅干煮(税込1,150円)
ランチのみ提供数量限定



納豆チャーハン
(税込1,500円)
ランチ(税込1,350円)



ねぎワンタン
(税込1,360円、小850円)



焼豚と葱の辛味麺
(ランチ限定)
(税込1,150円)



お店の方から一言

創業48年、現在の南青山・骨董通りでも33年が経過しました。様々なランチメニューで幅広い年齢層の方々にご来店いただいています。お客様とのやりとりから生まれたねぎワンタンや納豆ごはんなどは是非お楽しみ下さい。



店名 中華風家庭料理 ふーみん
住所 港区南青山5-7-17 小原流会館B1F
電話番号 03-3498-4466
営業時間 ランチ 11:30 ~ 16:30 (16:00L.O.)
ディナー 18:00 ~ 21:30 (21:00L.O.)
定休日 日曜日、祝日、第一月曜日
アクセス 表参道駅B1出口より徒歩3分
※表参道駅B3出口にはエスカレーターあり
ソフトバンクのみあり
Wi-Fi あり
喫煙 終日禁煙
携帯充電 不可

橋本病

伊藤病院 内科 川口明子



【はじめに】

今回は、甲状腺機能低下症の中でも頻度の多い、橋本病(別名：慢性甲状腺炎)に関して簡単にご説明します。女性の10～30人に1人は橋本病といわれており、日本人の橋本策(はしもと はかる)先生が提唱された、日本人に多い病気です。原因は分かっていませんが、甲状腺に慢性の炎症を起こす抗体という物質が体内で産生されてしまいます。こういった病気を、広く自己免疫性疾患と呼びます(その他に、関節に炎症を起こす抗体が産生されてしまう関節リウマチ、睪臓を破壊する抗体が産生されてしまう1型糖尿病など)。

【診断】

診断は、採血で甲状腺自己抗体(TgAb、TPOAb)が陽性となるか、びまん性甲状腺腫大(全体的な甲状腺の腫れ)があるか、組織検査で甲状腺へのリンパ球浸潤があるか等を参考に行います。甲状腺に炎症が起こる結果、甲状腺ホルモンを産生する力が低下してしまう事がありますが、橋本病のすべての方が甲状腺ホルモンが低下する(=甲状腺機能低下症)わけではありません。また、少しの減少でしたらあまり症状を来す事はないとされ、特にホルモン補充は必要ない事も多いです。

ホルモン減少の程度は、血液検査で測定しているTSHという値を基準に決めています。TSHは甲状腺刺激ホルモンといい、脳下垂体で産生しているホルモンです。甲状腺ホルモンが不足すると、TSHが上昇し甲状腺ホルモンを産生すべく甲状腺に働きかけます。そのため、TSH上昇=甲状腺機能低下症と判断し、TSHが10 μ IU/mlを超えてきた場合には、甲状腺ホルモンの補充療法が必要になります。

【治療】

治療は、甲状腺ホルモンを人工的に合成した、チラーヂンというお薬による薬物治療となります。治療効果は徐々に出てきますので、内服をして1ヶ月程すると血液検査で効果が分かります。チラーヂンの内服が始まると、薬はいつ止められるのか?とご質問を頂く事も多いですが、基本的には永続的に続ける必要があります。甲状腺ホルモンを合成する力を回復させる薬ではなく、足りない分を補充しているだけなので、内服を中止すると再度甲状腺ホルモンは低下してしまいます。拳児希望があり内服されている方や、橋本病に合併しやすい無痛性甲状腺炎後などの一時的な機能低下症では、内服を中止できる事もあります。

また、ヨウ素という物質が多く含まれるものを過剰に摂取すると、甲状腺ホルモンの合成は低下する事が知られています。そのため、橋本病の方はヨウ素の過剰摂取は避ける必要があります。具体的には、食べ物の中では昆布を毎日摂取しなければ大丈夫とお伝えしています。海苔やわかめはどうかというお問い合わせを頂く事が多いですが、同じ量で比べるとヨウ素含有量は昆布：わかめ：のりで100:10:1程度ですので、とりわけ昆布に注意して頂く必要があります。また、うがい液として市販されているイソジンうがい液も、イソジン=ヨウ素ですので短期間の使用に控えるか、その他のうがい液にして頂く方が望ましいです。

甲状腺ホルモン薬は人工的に合成したものですが、体内で作られる甲状腺ホルモンと同じ成分ですので、副作用がでることはまずありません。内服を続ける事に心配はありませんので、毎日のお薬は大変ですが、頑張って内服を続けましょう。

～ 放射線検査室 ～

伊藤病院 放射線検査室室長 辻仁

現在、当院放射線検査室には12名の診療放射線技師が在籍しております。

診療放射線技師は、放射線技術の専門知識を生かして、放射線や検査の説明、目的に応じた撮影、三次元画像などの作成や読影の補助など、手術や診断のサポートおよび放射線治療などを行う仕事です。また、病院内すべての放射線業務に関わるため、放射線機器や被ばくの管理なども重要な業務となります。



当院での業務内容は以下の通りです。

・**単純X線撮影**… X線を使用して体内の情報を画像化する、いわゆるレントゲン検査です。極微量のX線で撮影できます。当院では、胸部や腹部を検査することが多いです。

・**骨密度検査**… 当院では2種類のX線によって測定するDEXA法で骨密度検査を行っています。精度が高く、骨折の危険性が高い部分に分かります。

・**CT検査**… X線を使用して撮影し、体の断面画像を得ることができます。検査する部位によっては、造影剤という薬を使用して撮影することもあります。また、必要に応じてCT撮影した画像を処理して三次元画像を作成し、手術のサポートを行うこともあります。



・**核医学検査**… 放射性医薬品(RI)を飲んだり、注射したりして検査や治療を行います。体に直接放射性物質が入るので管理が重要になっていきます。当院では、1955年からRIを使用した治療をはじめました。そこから培われた技術と経験に基づき、毎年約1,000人の治療を行っています。



・**リニアック治療**… 高エネルギーの放射線を使用した治療です。当院では、甲状腺眼症に対する眼筋リニアック治療のほか、がんの治療も行っています。



この他には、他病院から紹介状と一緒に持ち頂いた画像を当院カルテへ登録したり、画像診断に携わる業務をおこなっています。

放射線の検査や治療となると被ばくの心配などあるかと思いますが、当院では常に最新の医療機器を導入し、被ばくの低減に努めています。ご不明な点、ご心配なことがありましたらご相談ください。



このコーナーでは、当院の診療連携施設であるやました甲状腺病院の情報をご紹介してまいります。

医療法人福甲会 やました甲状腺病院 理事長・院長 山下弘幸

やました甲状腺病院の山下です。

医療にかかわる働き方改革について、以前掲載させていただきました。少子高齢化による労働人口の減少、高齢者にかかる社会保障費用(年金や医療費)の増大などの問題解決には時間あたりの生産性を高める必要があり、IT 投資を含む設備投資を積極的に実施し効率化を目指すという内容でした。さて、今回は医療の生産性に関して、具体的に述べます。最後はやや辛辣な内容になっていますが、宜しくお願いたします。

生産性向上の要素でもっとも重要なものは単価を上げることで、通常の産業ではサービスの充実や付加価値を高めることで価格に反映させることができます。政府は各企業に賃金上昇を求めており、これには消費を促す目的があります。医療界において上記のことを可能にするには診療報酬を上げるしかないわけですが、社会保障費用負担のためにできないのが現状です。さて、単価を上げることができないなら、次の手段として効率の向上を検討しなければなりません。以下は急性期病院をモデルにしています。血液検査のための機器はオートメーション化されてきており、人手はさほど要せずに大量のサンプルを短時間に測定可能となっています。一方、技師が行っている生理検査や放射線検査などでは機械化は困難となります。また、以前は3分間診療と揶揄されていた医師の診療時間は十分な説明が求められるようになり、長くなっているのではないのでしょうか。このことは大事なことですが、生産性からみると低下因子となります。手術に関しては、最近ロボット手術の採用がひろがってきていますが、外科医がすべての操作に係わっているところが、自動車産業のロボット化などとは違っていません。手術時間が長くなることや初期費用・維持費を考慮すると決して生産性向上にはなりません。結局のところ、手術の生産性向上は外科医の熟練により適切な手術を安全に短時間で終わらせることでしか得られません。さて、上記のことを考えると、それぞれの施設が得意な分野に集約化し生産資源をつぎ込むことが重要になりそうです。日本の生産性が低い一因とし

て、中小企業が多いことが指摘されています。規模がないとグローバルに戦っていけないからです。医療においても生産性の効率だけの問題ではなく働き方改革およびそれに係わる労働者の保護がすすんできていますので、今後も合併などによる規模の拡大が益々必要になると考えています。

さて、以下は患者さんの御協力による生産性の改善についてです。米国で2年間ほど過ごしましたが、日本のようにきめ細やかなサービスがなく、ある意味損をするのも自己責任という社会だと感じました。クーポンを提出すれば安くなるサービスがあるとして、日本ではクーポンをお持ちですか?と尋ねられることが多いのですが、米国ではそれはありません。どこかに掲示しているのだから、読まない、あるいは申し出ないからサービスは受けられないという考えです。当院には電話でいろいろな問い合わせがありますが、そのなかには長々と要点が得られない内容も多く、こちらの時間にはおかまもなく1から10まで尋ねられる方も多いと伺っています。今年のゴールデンウィークでは9連休になりますが、休み中の予約の電話がかかってくるでしょうし、休診ですと応えればなぜ休みかとくっついてかかる患者さんもいるかも知れません。医師の診療においても同様なことは稀ではありません。大抵の病院では必要な情報は院内掲示板やホームページに記載されています。電話する前や医師の診療前に要点をまとめておくなど患者力を高めていただくことが、医療界の生産性向上の一助になることをわかっていただければ幸いです。



医療法人福甲会
やました甲状腺病院

〒812-0034 福岡市博多区下呉服町1-8
<http://www.kojosen.com/index.html>
TEL : 092-281-1300 FAX : 092-281-1301

藤田医科大学より医大生が見学に来られました

名古屋甲状腺診療所 事務長 高田博史

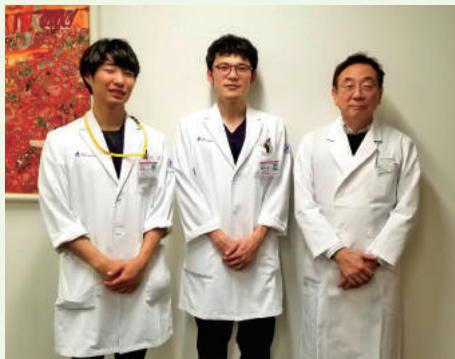
4月10日、藤田医科大学内分泌外科医局からのご依頼で、同大学医大生2名が見学にいっしょにいました。藤田医科大学は、以前から日比八束教授を始め、外科医・内科医が非常勤医師として当診療所の外来診療へ携わっていただいて、連携施設として関係を深めております。

これまで他施設の先生方がいらっしゃるが多々ありましたが、医学生の見学は初めてでした。椿院長も将来の甲状腺疾患の診療を担っていく方々に、出来る限り協力していきたいとの考えで、診察・診断や治療方針についてのご説明から、検査現場を含めて診療所内全体をご覧頂きました。

臨床検査室、エコー検査室、並びに放射線検査室については、それぞれ実施している検査項目と、検査実施から結果報告までの流れや所要時間などをご説明しました。

入院設備こそありませんが、専門施設として甲状腺疾患に関わる検査・治療はほぼすべてご提供出来る設備を整えておりますので、お二人が当初イメージされていた診療所とはかけ離れ、小回りの利く小さな病院のような印象を受けられました。特に全国でも数少ない外来アプレーションを実施できる診療体制には驚かされている様子でした。見学された後には、大学病院とは違って患者様との距離が非常に近く、患者様へ寄添う気持ちがより重要であることを感じたとの感想を伺いました。

今後も患者様に対する情報発信はもちろんのこと、若い先生方に甲状腺疾患について関心を持っていただけるような情報発信も心がけていきたいと思います。



名古屋甲状腺診療所(旧 大須診療所)

住所：愛知県名古屋市中区大須4-14-59
電話：052-252-7305 FAX：052-252-7308
HP：kojin-kai.jp/nagoya



市民公開講座「甲状腺セミナー」を開催しました

さっぽろ甲状腺診療所 事務長 澤井敏樹

北海道は初夏を迎え、これから短い夏が始まろうとしています。樹木も青々と茂り、一番北海道らしい季節となります。

去る4月14日、開院以来継続して行っております3回目の市民公開講座「甲状腺セミナー」を開催しました。当日は天候も良く、小春日和のなか、札幌市はもとより、遠方からのご参加もあり、400名の受講者の皆様に参加頂きました。講師は伊藤公一院長(当法人理事長)はじめ松津賢一外科医長、さっぽろ甲状腺診療所の岩久建志院長の3名が登壇しました。はじめに伊藤院長から甲状腺疾患全般について、続いて松津外科医長から甲状腺がんの症状や手術について、岩久院長からは、甲状腺内科専門医が提供するパセドウ病の診断・治療について、今回は、より甲状腺の病気を理解して頂きたいとの想いで詳細をわかりやすく講演しました。2時間半の長丁場でしたが、最後までほとんどの方に聴講頂き、盛況のうちに終演となりました。3回目ではございましたが、ご参加いただいた皆様が、メモを取りながら聞いていらっしゃる姿を拝見し、今まさに甲状腺の病気で悩んでいらっしゃる方、あるいはそのご家族の方が多くご来場いただいたのだと想像します。終了後に岩久院長が呼び止められ、「今度是非先生に診察してほしい」と声を掛けられるというエピソードもございました。今後も専門性の高い診療のご提供はもとより、甲状腺の病気に関わるさまざまな情報を発信し続けて参りたいと思います。

そして、さっぽろ甲状腺診療所も開院から1年半が経過し、多くの皆様を受診していただけるようになりました。土曜日は予約が取りにくくなるなど、一部ご迷惑をおかけしておりますが、これからも北海道地区の甲状腺の病気で悩む方々が少しでも楽になるように職員一同努力して参ります。



さっぽろ甲状腺診療所

住所：北海道札幌市中央区大通西15丁目1-10
ITOメディカルビル札幌5F
電話：011-688-6440 FAX：011-688-6439
HP：kojin-kai.jp/sapporo



キベリタテハ (Camberwell beauty)

連載2回目は美しいキベリタテハを紹介します。キベリタテハという蝶は、中部地方の山岳部から福島県以北にかけての冷涼な地域に分布しています。

キベリタテハは英名をCamberwell Beautyといいます。もともとこのチョウは、南ロンドンのCamberwellの近くのCold Arbour Laneという場所で、1748年に2個体が最初に発見されました。モーゼス・ハリス(Moses Harris)という英国人の昆虫学者は、1766年に発刊された“The Aurelian”という本の中で、このチョウを最初に発見された場所にちなんで“Camberwell Beauty”と名づけたのです。ちなみに当時のロンドンのCamberwell地域は歓楽街だったので、この英名を日本語に訳すと「カンバーウェルのお姐さん」ということになるのでしょうか。

学生時代に訪れた北アルプス山中の白樺林で、この美しい蝶に初めて出会った時の興奮は今でも脳裏に焼きついています。

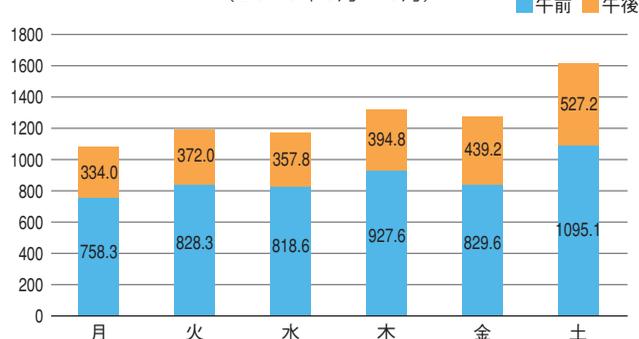


統計情報

曜日・午前午後別の外来受診者数について

当院は予約制をとっておりませんので、患者様のご都合のよい日時にご来院いただける一方で、混雑時には待ち時間がさらに増えてしまう状況にもあります。これまで診察室増設、各種検査技師の増員、ITの拡充による業務効率化などの対策を進めて参りましたが、十分とは言えない状況です。そのため、患者様より空いている曜日や時間帯についてご質問をいただくこともございますので、今回、曜日別および午前・午後別の外来受診者数について、昨年の同時期の統計をご紹介します。

曜日・午前午後別の平均外来患者数
(2018年6月～8月)



統計では、週の前半が比較的混雑が少なく、どの曜日でも午前の方が混み合う状況にありました。また、グラフでは見られませんが祝日の前後や、祝日の曜日と同じ曜日は前後の週も混雑することが多くっております。

外来では、特に医師の指定が無い方は、待ち時間が長くなるよう、各診察室の待ち人数を考慮して診察室を決定しております。患者様のご都合や医師の外来担当日などの兼ね合いもございますが、ご来院の日時を決める参考になりましたら幸いです。

また、決まった医師の診察を継続されている方や、医師のご希望のある方はそちらを優先して診察室を決定しております。女性・男性医師、〇〇医師など、医師の指定や変更のご希望がございましたら、2F外来中央にお知らせ下さい。(病気の性質や治療内容によりご希望に添えない場合もございます。)

今後も待ち時間軽減への取り組みを継続してまいりますので、皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

Voice へのご意見をお寄せください

いつも伊藤病院広報誌「Voice」をお読みいただき、ありがとうございます。

Voiceは、2003年の創刊以来、取材から記事の執筆まですべて院内のスタッフによる手作りで発行しています。年4回発行しておりますが、ご病状が落ち着いて来院間隔が広がった患者様から、前号のVoiceがほしい、というお話を伺うこともあり、スタッフ一同、毎号気持ちを引きしめて取り組んでおります。

広報誌委員会では、看護師、放射線技師、臨床検査技師から事務系の職員まで、様々なメンバーが集まり、それぞれの長所を活かしてVoiceを編集しております。下記は、伊藤院長と広報誌委員一同が集まる会での写真です。今年度で交代する新旧の委員とともに創刊当時の委員も加わり、患者様のためのVoice作りについて皆で話し合いました。

今年度も、患者様のお役に立てるよう、また楽しく読んで頂けるVoiceを目指して制作して参ります。ぜひ皆様からのご意見、ご要望を、院内1Fに設置のご意見箱にお寄せください。



今後とも、『Voice』を
よろしく願いいたします。

ご意見箱は1Fの記載台にあります。



伊藤病院 広報誌委員会より

病院からの おしらせ

学会・研究会

第35回 甲状腺病態生理研究会(東京・2/9)

- 鈴木菜美 「抗甲状腺薬による薬剤性肝機能障害の検討」
- 川口明子 「マクロTSHによりTSH偽高値をきたした一例-マクロTSH血症におけるTSH値の乖離に関する検討-」
- 渡邊奈津子 座長[セッション1]

第5回 日本医療安全学会学術総会(東京・2/9～10)

- 宮崎直子 「採血室における事象発生後対応管理(PARM)への取り組み」
- 北川 亘 パネルディスカッション「甲状腺外科治療における医療安全～甲状腺・副甲状腺の術後出血に対する管理と対応について～」

第4回 内分泌アゴラ(東京・2/13)

- 吉村 弘 「妊娠時の甲状腺機能のコントロールについて(甲状腺機能、抗体検査の意義についても)」

Executive Spring Seminar(東京・4/4)

- 吉村 弘 座長「Brugada症候群の最近の話題/DOACと不整脈」

第11回 静岡東部内分泌代謝疾患治療研究会(沼津・4/18)

- 吉村 弘 「パセドウ病治療ガイドライン2019」

第119回 日本外科学会定期学術集会(大阪・4/18～20)

- 赤石純子 「小児および若年性甲状腺乳頭癌の臨床的特徴」
- 正木千恵 ワークショップ「リアルワールドにおける進行甲状腺癌に対する薬物療法の意義」

講演活動

静岡県西部甲状腺がん診療を考える会(浜松・2/2)

- 杉野公則 「[特別講演]甲状腺分化がんに対するレンビマ治療の問題点と知見-伊藤病院での経験から」

イーザイ株式会社「MR実践研修」(東京・2/6)

- 大桑恵子 「放射性ヨウ素内用療法治療患者におけるその後のTKI治療の対象となる症例像の予測」

第15回 Hitachiomiya Medical Session(常陸大宮済生会病院・2/7)

- 鈴木章史 「甲状腺腫瘍診療ガイドライン2018」

LENVIMA Meet the Expert in Tokyo(東京・2/8)

- 正木千恵 「レンバチニブ投与症例における予後予測因子とPD後の対応」
- 杉野公則 座長「レンバチニブ投与症例における予後予測因子とPD後の対応」

第2回 桜山甲状腺がんセミナー(名古屋・3/1)

- 杉野公則 「甲状腺分化がんに対するレンビマ治療の問題点と知見 -伊藤病院での経験から」

練馬区産婦人科医会研修会(東京・4/20)

- 吉原 愛 「妊娠と甲状腺疾患」

表紙no写真

ブラームスの小径

今号の表紙の写真は、ブラームスの小径です。竹下通りから1本表参道寄りに入ったところにありますが、竹下通りとは打って変わってひっそりとしています。道沿いの洋館(レストラン「ジャルダン・ドルセーヌ」)の店先にはドイツの音楽家ブラームスの胸像もあり、なにやらヨーロッパの路地に迷い込んでしまったような気持ちになります。

この小径の名付け親は、洋館の初代経営者と親交の深かった作家フランソワーズ・サガン氏で、自著「ブラームスはお好き」(熊野)にちなんで命名されたとのこと。



編集後記

新緑の香りがすがすがしく、爽やかな初夏の風を感じる季節となりました。日に日に暑さが増し、クーラーの効いた室内にこもりがちになりますが、今号のVoiceでは「冷房病(クーラー病)対策」についての記事もありますので参考にしていただくと幸いです。

夏には楽しいイベントもたくさんありますね!土用の丑の日にはうなぎを食べ、精をつけて暑さを吹き飛ばしましょう!

今後も、皆さまに楽しんでいただけるような広報誌をお届けできるよう制作に励んでいきたいと思ひます。

気温の変化に気をつけ、体調を崩さないようお過ごしください。(菊地)

甲状腺疾患書籍のご案内

★いずれの書籍も伊藤病院1F売店で販売しております。ぜひ、ご活用ください。



新版「甲状腺の病気の治し方」

監修: 伊藤公一
定価: 1,404円(税込)
発行: 講談社



「名医の図解 よくわかる甲状腺の病気」

著者: 伊藤公一
定価: 1,400円(税込)
発行: 主婦と生活社



「ウルトラ図解 甲状腺の病気」

監修: 伊藤公一
定価: 1,620円(税込)
発行: 法研



「よくわかる 最新医学 甲状腺の病気」

監修: 伊藤公一
定価: 1,512円(税込)
発行: 主婦の友社



「患者のための最新医学 バセドウ病・橋本病・その他の甲状腺の病気」

監修: 伊藤公一
定価: 1,300円(税込)
発行: 高橋書店



「図解 甲状腺の病気がよくわかる 最新治療と正しい知識」

監修: 伊藤公一・高見博
定価: 1,510円(税込)
発行: 日東書院



安全! 便利! おいしい! 甲状腺専門・伊藤病院がおくる ヨウ素制限食レシピ

監修: 伊藤公一
編集: 北川巨
定価: 1,728円(税込)
発行: 全日本病院出版会

発行 2019年6月1日発行 第66号 伊藤病院広報誌委員会

ITO HOSPITAL
伊藤病院

〒150-8308 東京都渋谷区神宮前4-3-6

TEL : 03-3402-7411

FAX : 03-3402-7415

URL : <http://ito-hospital.jp>